

環境問題

ごみ減量化の抜本的対策

問 ごみの減量化には、ごみ分別の徹底が必要ではないか。また、ごみ袋の値段を上げることが減量化に本当に有効なのか。

答 現在、本市のごみの分別は、5種7分類である。分別の細分化は、分別費用の発生や市民負担が増えるなどの問題が考えられる。ごみ減量は、ごみの発生抑制にかかっていると認識しており、次に再使用、再生利用へと展開すべきである。

19年度は「ごみ減量化・資源化計画」を全面改定し、新たな施策を実施してごみの細分化についても、各施策との連携や財政状況を見ながら検討していく。

ごみの減量化は市民・事業者・行政の三者が協働で取り組むべき課題であるため、市としても、広く協力を求めながらごみの減量を図りたい。そうすることで焼却量を削減、温室効果ガスの発生を抑制し、さらなる地球温暖化対策にも貢献したい。

ごみの有料化に関する本市の考え方は、「袋1枚がいくら」という方式で「単純重量制」といわれるものである。一方、一定枚数のごみ袋については無料で、「それを超えたごみの排出に必要な袋代金が有料」という方式は「超過量有料制」といわれている。有料化を実施している自治体においては、いずれかの方式で取り組まれている。

メリットとデメリットがあり、ごみを有料化する本来の目的であるごみ減量化への取り組みや負担の公平の原則を考えると、単純重量制の方式が適切であると考えている。

ごみの有料化を進めるにあたっては、市民の意見を反映させるため「ごみ有料化検討委員会」を設置し、調査研究していくこととしている。

チーム・マイナス6%

問 市役所が市民の先頭に立って、地球温暖化対策に取り組むため、環境省が提唱している地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」に団体参加してはどうか。

答 「チーム・マイナス6%」に参加することで、温暖化対策に取り組む市の姿勢を示すことができ、市職員が率先して対策に取り組むための動機づけに効果があると考えている。

さらに、温暖化防止運動を市民へ波及できる効果も期待できることから、市として「チーム・マイナス6%」の団体参加を前向きに検討したい。

地球温暖化問題は、ごみ処理問題などの多くの環境問題と密接にかかわっている。一つの問題の解決が他の問題の解決にもつながることから、市としても総合的な観点から温暖化対策に取り組むたい。

地球温暖化対策については、市が率先して取り組むとともに、市民が環境に配

慮した行動ができるよう、わかりやすい情報提供や啓

発に努めたい。

子育て支援

若年世代定住・子育て支援策

問 放課後児童クラブの時間延長と学年拡充について伺いたい。

答 共働き家庭などの放課後児童クラブの利用ニーズは高く、時間延長と学年拡充を希望する保護者が多いことは認識している。しかし、保育時間を延長するためには、職員の勤務体制や延長に伴う費用負担の問題、また、児童の帰宅時の安全対策などの課題を解決する必要がある、すぐに実施することは困難である。

今後は、保護者のニーズを調査して要望を具体的に確かめ、その結果に基づいて検討を進めていく。

対象学年の拡充については、法の趣旨に基づいて小



▲地域に大人と子どもの交流の場をつくらう

学校3年生までとしているが、対象の児童数が増加することに伴う施設整備や職員配置などからも、困難と考えている。

また、児童も4年生以上になれば、個人差はあるが、判断力とともに、自主性や社会性も培われる。児童の主体的行動力の養成と家庭での子どもの役割の意識づけのためにも、現行の対象学年で対応していきたい。

子どもの居場所作り

問 文部科学省と厚生労働省が連携して進める「放課後子どもプラン」が平成19年度創設されるが、本市の具体的な取組みについて伺いたい。

答 子どもの居場所づくり事業は、子どもの健全育成の場を提供するだけでなく、地域社会で子どもと大人が交流し、つながり、共に成長する場をつくることとと考えている。

小学校施設などを活用して多様な体験活動や交流活動が展開できるように支援するためには、地域の方々の参加を得て地域ぐる

みで子どもをはぐくむための自立的な推進組織を欠かすことができない。19年度は、この事業を地域に広げていくため、小学校区を単位とし、2小学校区程度から進めていきたい。

今後、地域はもとより、PTA関係者、学校関係者などに説明し、この事業を担う組織の立ち上げと実施する小学校区を早急に決めたい。

学校・幼稚園グラウンドの芝生化

問 他市において「芝生化推進事業」として子どもたちの遊びとなる環境づくりに取り組み、心身ともにたくましく生きる子どもを育成していると聞か、本市でも、学校や幼稚園の芝生化を検討しているのか。

答 本市では、市立かるがも園を受託運営する社会福祉法人「ひょうご障害福祉事業協会」において17年から「NPO法人芝生スピリット」の方々の指導や地域・保護者の方々の協力により、現在では園庭一面に広がる芝生の上での保育が行われている。

芝生の効果について保育の担当者からは、園児のすり傷などが減った、今まで室内で遊んでいた園児が屋外で遊ぶようになったと聞いている。

校庭やグラウンドの芝生化は、教育的な効果とともに、芝生の整備や維持管理の機会に保護者や地域の皆様と学校・園との交流やつながりができる面も期待で

きる。本市の学校・幼稚園における芝生化については、保護者や地域の意見も伺い、先進的な取組み事例を参考にしながら、実施について前向きに検討していきたい。

三田市民病院の人工透析

問 三田市民病院の人工透析室閉鎖の影響について伺いたい。

答 5月に腎臓内科医2人が大学へ引き上げられた後、当院では通院、入院患者に関わらず、透析患者に対する透析はできなくなる。医師の引き上げまでに腎臓内科外来に受診予約されている約190人、透析通院されている13人、入院されている5人の患者については、意向や症状に応じて、他の病院へ転院できるよう最善を尽くしていく。

現時点では、全ての患者の転院先は確保できると考えている。今後は、人工透析が早期に再開できるように専門医師の確保に努めていく。

人工透析室のスタッフの処遇と透析機器の維持については、今回の閉鎖は一時的なものと考えており、職員は他の関係職場に人事異動により配置転換する。機器等は、現時点では再開しやすいよう定期的に整備、点検を実施していく。

内科外来において腎臓内科が行っていた週3回の専門診療については、専門医師が2人も引き上げになるので、閉鎖となる。

市ホームページで市議会情報がご覧になれます。ホームページアドレスは http://www.city.sanda.lg.jp/ です。

声の議会だよりを発行しています。目の不自由な方にも、議会の活動を知っていただくため、声の議会だよりを発行しています。利用を希望される方は、議会事務局 ☎559-5162 (議会事務局直通) までお問い合わせ下さい。